令和４年度　教育事業　ボランティアリーダー養成事業

「さんべボランティアのススメ～先輩から後輩へ～」

１　趣　旨

・主体的に社会に参画しようとしている青年を対象に、事業の企画・運営を通してリーダーシップを身につけ、将来のリーダーとなるための体験を通した学びを提供する。

・「さんべボランティアセミナー」（以下、「ボラセミ」という。）の企画・運営に向けた話し合い活動や実習を通して、参加者同士のコミュニケーションを深めていく。

２　事業の概要

（１）期　日　①企画編　令和４年４月１６日（土）　＜オンライン研修＞

②本番編　Ⅰ．令和４年５月２８日（土）～２９日（日）　＜１泊２日宿泊＞

Ⅱ．令和４年７月　９日（木）、１０日（金）　＜両日日帰り＞

（２）会　場　①企画編　国立三瓶青少年交流の家（オンライン研修）

②本番編　Ⅰ．国立三瓶青少年交流の家

Ⅱ．城東公民館（松江市）

（３）参加者　①企画編　２名　募集６名（社会人ボランティア　２名）

②本番編　Ⅰ．１名　募集６名（社会人ボランティア　１名）

Ⅱ．１名　募集６名（社会人ボランティア　１名）

（４）研修内容

①企画編（オンライン研修）

4/16	14:00		15:00
	受付	企画説明	

②本番編　Ⅰ

5/28	10：00	10：30	12：30	13:30	17：30	19:00	21：00
	入　所 受　付	オープニング	昼食	講義「ボランティア活動の意義・技術」など	夕食（野外炊飯） 入浴	演習：青少年教育施設におけるボランティア活動の意義	就　寝

5/29	6:30	9：00	12：00	13：00	16：30
	起　床 掃　除 朝　食	救命救急法講習	昼食	講義・演習「青少年教育」	解　散

②本番編　Ⅱ

	9:30	10:40	11:30	12:30	13:30	15:00	18:30
7/9	オープニング	講義 「青少年教育施設の現状と運営」	**演習：青少年教育施設におけるボランティア活動の意義**	昼食	演習 「ボランティア活動の技術」	講義・演習 「青少年教育施設におけるボランティア」	解散

	9:00	12:00	13:30	16:30
7/10	講義・演習 「安全管理研修」	昼食	講義・演習 「青少年教育」 「ボランティア活動の意義」	解散

※青で塗られたコマが先輩の話の時間

３　事業の内容

（１）プログラムデザインと企画のポイント

これまでに当所で活動してきたボランティアが「先輩ボランティア」(以下、「先輩ボラ」という。)として、ボラセミの企画及び事業運営の補助に当たる。今回の先輩ボラは学生とも年齢が近い社会人ボラに参加をお願いした。先輩ボラとボラセミ参加者がつながることで、次の世代のボランティアの育成が継続して行えるように心掛けている。

（２）運営のポイント

先輩ボラが、ボラセミ参加者への講義・演習「青少年教育施設におけるボランティア」の１コマの企画・運営を行う。ボラセミ参加者と活動をしていく中で、関わりを深めていき、当所でボランティア活動を行う意欲が高められるようにするとともに、効果的に学びを深め、円滑な人間関係を築けるようにした。また、今回呼んだ社会人ボラは仕事と自己研鑽を両立しているボラであり、学生にとっても刺激となる関りとなるようにした。

４　参加者へのアンケート結果

（１）アンケートの集計

①企画編　(%)

	満足	やや満足	やや不満	不満
事業全体	100	0	0	0
プログラム	100	0	0	0
運営	100	0	0	0
職員の対応	100	0	0	0

②本番編Ⅰ

	満足	やや満足	やや不満	不満
事業全体	100	0	0	0
プログラム	100	0	0	0
運営	100	0	0	0
職員の対応	100	0	0	0

本番編Ⅱ　(%)

	満足	やや満足	やや不満	不満
事業全体	100	0	0	0
プログラム	100	0	0	0
運営	100	0	0	0
職員の対応	100	0	0	0

（2）参加者の声

【本番編について】

・改めて、法人ボランティアとはどういったものか考える良い機会となった。

・社会人として普段から多くの方と関わる機会はあったが、今回は学生にボランティア活動について伝えるということで、どのような言葉や話し方がよいかを考える機会となり、改めて人に伝えることについて考える場となりよかった。

・学生の熱い思いに触れることができ、社会人である自分自身も大きな刺激を受けることができた。今後は後輩ボラとともに三瓶でボランティア活動がしたい。

５　成果と課題

≪成　果≫

・今回参加した先輩ボラは社会人として普段の生活の中でも、自身の能力を発揮しているボランティアであったが、事業を通して、「後輩ボラに向けて何を伝えるか、どのような話し方で伝えれば自分の考えがより伝わるかなどを考えることが難しかった」という振り返りから、改めて「伝え方」を考える場を作ることができ、今後の社会人生活にも活かされる経験を積むことができた。

・「今後は後輩ボラとともに三瓶でボランティア活動がしたい」というアンケート記述から、今回ボラセミ参加者とのつながりを意識したプログラム構成の結果、先輩ボラにとっても今後の活動への活力となった。

≪課　題≫

・当所のボランティア活動は、主に島根大学教育学部の「１０００時間体験学修」と連携をしながら行っている。しかし、今年度は、コロナ禍の影響もあり、当所でボランティア経験がある島根大学の学生がいなかった。また、浜田の県立大学生も都合が合わず参加ができなかった。最終的には社会人ボラに参加いただき、実施ができたが、学生のボランティア経験の場をしっかりと作り、以前のように学生間で関わりあえる環境を作る必要があると感じた。また、今回社会人ボラが参加したことで、新たなよい影響が生まれた。今後も学生ボラと社会人ボラを繋げていくとよいと感じた。

本番編の様子

（担当：企画指導専門職付　中谷　康希）